■ミレニアム開発目標／ MDGｓ

2000 年に国連総会で、世界の貧困問題を解決するための ″21 世紀の国際社会の目標″ として採択された「ミレニアム宣言」をもとに、2015 年までに達成すべき目標として定めたのが「ミレニアム開発目標（Millennium Development Goals：MDGｓ）」です。世界中の指導者が、世界の貧困問題解決への取り組みに対し、具体的な数値目標を定め、期限を設定し、その達成を約束しました。しかしながら、達成期限まであと 5 年という現在、その達成は危ぶまれています。

830,000,000 人	途上国での栄養不良人口は 8 億 3,000 万人です	極度の貧困と飢餓をなくす
30%	最も貧しい地域に住む子どもたちの 30%以上が小学校に行ってません	みんなが小学校に通えるようにする
5,200,000 人	途上国の小学校に行っている女の子の人数は男の子と比べて 520 万人も少ない	ジェンダーの平等を進めて女性の地位を向上させる
8,800,000 人	5 歳まで生きられない子どもの数は 880 万人です	5 歳までに亡くなる子どもの数を減らす
300 倍	妊娠期間中に命を危険にさらすリスクは途上国の女性は先進国の女性の 300 倍です	妊産婦の健康を改善する
33,400,000 人	世界の HIV 感染者は推定 3,340 万人です	HIV/ エイズ、マラリア、その他の病気が広まるのを防ぐ
13,000,000ha	世界では、1 年に 1,300 万ヘクタール（日本の面積の約 1/3）もの森林面積が失われています	環境の持続可能性を確保する

世界の一員として、先進国も世界の問題に対し責任を持ち、よりよい世界のために協力する

出典：Goal1・4「Millennium Development Goals Report 2010」http://mdgs.un.org/unsd/mdg/default.aspx、Goal2・3・5・6「DevInfo di facts」http://www.devinfo.org/di_facts.html、Goal7「MDGs in Africa」http://www.undp.or.jp/mdgsafrica/

■つくりだされる貧困　～カカオ畑で働く子どもたち

ガーナのカカオ生産農家

カカオ畑では一年中たくさんの仕事があります。まず、カカオの木を植えるために、草木を切って土地を切りひらかなければなりません。苗を植えてから実がなるまでは約 2 年かかります。草刈りも大切な仕事の一つです。2 年ほどでカカオの実がなると、ナタ（刃物）で実を割って中の果実と種を取り出します。それを一か所にまとめてバナナの皮でくるみ、発酵させます。その後の乾燥の作業は家でおこなうため、発酵させたカカオ豆を家まで持って帰ります。畑から家までは数キロも離れている場合が多く、持ち運ぶのは重労働です。家に持ち帰ったカカオ豆は天日で十分に乾燥させた後、卸売業者に買ってもらいます。

ガーナのカカオ生産農家の多くは、家族経営で小規模なのが特徴です。農家にとって、カカオ豆の生産・販売は主要な現金収入源となっており、多くの農家がカカオ豆を販売して生計を立てています。しかし、収入は十分とはいえません。さらに、カカオを育てるためには農薬や肥料なども買わなくてはなりません。特に小さな農家ほど苦しい生活をしています。

カカオ畑で働く子どもたち

サムエル君は、ガーナに住む 16 歳の男の子です。学校へはほとんど行かず、2 時間かけて畑に行き、カカオ畑の手入れや他の作物をとってくるのが毎日の仕事です。カカオの木のまわりの草を大きなナタで刈り取っていきます。軍手や作業着などは身につけず、Ｔシャツにゴムぞうりで働くため、アリや蛇にかまれることもあります。けがをしても消毒などはせず、薬草をこすりつけておしまいです。

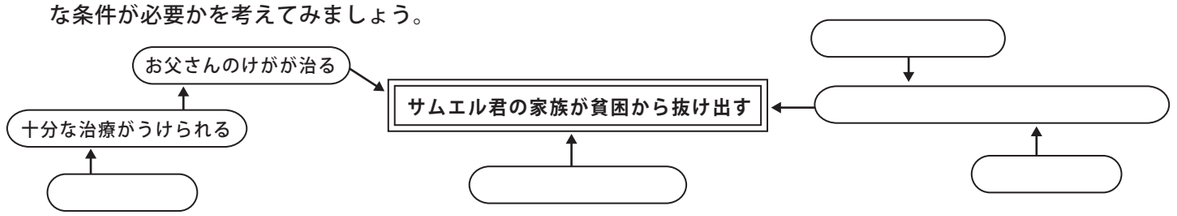
お父さんは腰を痛めていて、畑仕事ができません。カカオの売値は安く不安定なため、少しでも収穫量を増やすために一生懸命働いた結果、体をこわしてしまったのです。体をあまり使わない仕事があればよいのですが、このあたりではカカオを生産する以外に現金を得る仕事がありません。人を雇う余裕もないため、サムエル君の一家では子どもたちが主な働き手となっています。サムエル君の幼い弟たちは学校へは行っていますが、朝と夕方は畑の手入れやカカオの収穫作業を行い、家計を助けています。弟たちが学校へ行くためのカバンは５人に１つだけで、ノートもペンも足りません。カカオを育てて売らないと、文房具も買えなくなってしまいます。

? なぜ、サムエル君は働かなくてはならないのでしょう。

? サムエル君が大人になったら、どのような生活をおくるか想像してみましょう。

ワークシート

! サムエル君が、カカオ畑で危険で大変な仕事をせずに、学校に通い、苦しい生活から抜け出すためには、どのような条件が必要かを考えてみましょう。



チョコレートが私たちに届くまで

チョコレートの原料となるカカオ豆は、農家の人たちの多くの手作業によって大切に育てられ、たくさんの過程を経て、私たちの手元に届きます。

【カカオ農家】→【卸売業者】→【輸出業者】→【商社】→【メーカーの工場】→【小売店】→【消費者】

カカオの値段はだれが決める？

カカオは世界市場で取引きされており、ロンドンとニューヨークに商品取引所があります。取引きはコンピューター上で売り買いすることで行なわれます。カカオの値段は、産地の生産状況や世界のチョコレートとココアの消費状況のほか、カカオが欲しいからではなくお金もうけを目的に売り買いする人が、取り引きを行なうことによっても変動します。こうして、カカオの値段はカカオ農家とは全く関係のないところで決められ、農家はどんなによいカカオを作っても、売値を決めることができません。

■解決のための行動

? カカオ畑で働く子どもたちの状況を変えるために、私たちができることは何かを考えてみましょう。

? Ａ～Ｃは解決のための行動の一例です。それぞれどのような行動か、考えてみましょう。

日本国内閣総理大臣殿 **B**

世界の児童労働を撤廃するために、日本が批准している「最悪の形態の児童労働」条約（ILO 第 182 号条約）第 8 条に基づいて、政府の国際的な協力や援助を強化してください。

メッセージ

氏名　　都道府県

アドボカシー活動とは、問題を解決し社会をよりよくするために、政策を変えることを求める活動です。政策を変えるためには、その問題が起こっている根本的な原因を理解し、それを解決するための提案を、政策を決定する責任のある政治家や政府の担当者などに届けることが重要です。その際には、政治家や政府の担当者にその問題を重要と思ってもらえるよう、問題に気づいたできるだけ多くの人たちが声をあげていくことが、とても大切なのです。

調べてみよう！世界を変えたアドボカシー活動

例 1）児童労働撲滅キャンペーン：大量にカカオを輸入しているアメリカでは、「カカオは子ども奴隷によって作られている」という報道（2001 年）をきっかけに、NGO、消費者団体、政治家などが、カカオ産業から最悪の形態の児童労働をなくす運動をおこなった。それ以降、カカオ業界全体で「児童労働をなくす」という目的が共有されている。

例 2）地雷廃絶国際キャンペーン：地雷の使用、生産、備蓄、移転、売却のすべてを禁止する条約を成立させるために、欧米のＮＧＯが中心となって 1992 年に発足。1997 年「対人地雷全面禁止条約（オタワ条約）」の調印の大きな原動力となった。

STAND UP TAKE ACTION

STAND UP TAKE ACTION とは、ミレニアム開発目標／MDGｓの達成に向けて援助の増額と質の向上、貧困や開発に関する分野を超えた政策の改善を実現するための、アドボカシー活動です。今年は 9 月 17・18・19 日に行われます。

詳しくは ⇒ http://www.standup2015.jp/

～　慈善ではない。人間の行動こそが貧困を解決できる。貧困は人間が生み出したもの。だからこそ、私たちの行動で解決できる　by ネルソン・マンデラ